

《よこしん》景気動向調査結果について

－平成22年10～12月期実績、平成23年1～3月期予想－

横浜信用金庫（理事長 齋藤 寿臣）では、定例（四半期）の「景気動向調査」を実施いたしました。調査結果の概要は以下のとおりです。

【業況判断DI】

- ・業況DIは4期連続でマイナス幅が縮小するも回復は鈍化
- ・来期は悪化を見込む

- ・今期（平成22年10～12月期）の業況判断DIは前期比2.2ポイント改善の△26.2と、4四半期連続でマイナス幅が縮小しましたが、回復は鈍化しています。来期は△30.5と、4.3ポイント悪化を見込んでいます。

- ・製造業の今期業況判断DIは前期比8.4ポイント改善の△22.3と、6四半期連続でマイナス幅が縮小しました。特に、食料品（△18.2）、精密機械器具（△33.3）、金属プレス・メッキ（△21.4）で大きく改善しています。製造業の来期業況判断DIは△32.7と、10.4ポイント悪化を見込んでいます。

- ・非製造業の今期業況判断DIは前期比0.9ポイント悪化の△28.2となりました。不動産業（△7.8）と建設業（△31.0）で改善したものの、小売業（△38.3）とサービス業（△28.3）で悪化しています。非製造業の来期業況判断DIは△29.4と、1.2ポイント悪化する見込みです。

【特別調査】 平成23年の経営見通し

- ・日本の景気見通しは、「やや悪い」「悪い」が大方の見方。
- ・平成23年の自社の業況は、「やや悪い」が最多。
- ・平成22年比売上額伸び率は、「変わらない」「10%未満の減少」が多数。
- ・業況が上向き転換点となる時期は見方が分かれる、「改善の見通しは立たない」先も 約2割。

<調査概要>

調査対象：当金庫取引先（法人・個人事業者）774先 有効回答数：755先
調査方法：各営業店職員による聞き取り調査 調査時期：平成22年12月上旬

その他詳細につきましては、別添の「《よこしん》景況レポート」をご覧ください。

たしかな明日のお手伝い



横浜信用金庫

神奈川・東京に60店舗